

HITACHI

デジタル社会を支える日立認証技術のご紹介

～安心・安全・便利な生体認証技術の応用～

株式会社日立製作所

この資料には、株式会社日立製作所が秘密として取扱う情報が含まれております。この資料について、弊社の許可なく、目的外の使用及び第三者への開示はできません。

1.社会に浸透する生体認証

多様な価値感を満足させる鍵『生体認証』

安心・安全・便利なデジタル社会に向けた動向

技術進展により社会に浸透する生体認証は、次世代のデジタル社会に適用できるよう各国で「法規制の改正」や「データ管理の新たな形態」が進められています

社会浸透

生体認証市場規模
成長率 **15%**

3 2032年には、
倍規模に拡大

1,132 億米ドル

法制改正

データ保護法制度

- EU: GDPR (一般データ保護規則)
- 中国: PIPL (個人情報保護法)
- 米国: BIPA (生体認証情報プライバシー法)
- インド: SPDI (情報技術規則)
- 日本: APPI (改正個人情報保護法)
- 豪州: PA (連邦プライバシー法)
- ブラジル: LGPD (一般データ保護法)

法制改正の動向
規制強化と重い処罰刑
違法時の巨額な制裁

FORTUNE BUSINESS INSIGHTS市場調査レポート

データ管理

自分証明が必須となる
アイデンティティ社会

漏えい・不正から
どう守るか

社会変化

「他人にゆだねる」だけでなく「**自身でまもる**」
自己主権型が選択できる社会へと変化

セキュリティ企業

他人に
ゆだねる

選択

自身で
まもる

本人自身

日立の生体認証ソリューション

技術力、サービス力、応用力の3柱で次世代に向けた認証サービスを実現

指静脈や顔などの生体認証とこれらの機微情報を厳格に保護する公開型生体認証基盤「PBI」を組み合わせた革新的なクラウド型認証サービスを商用化

技術力

生体情報を安心・安全・便利に取り扱えるセキュリティ技術 PBI

PBIの特長
 鍵穴生成 (一方方向性変換で復元不可)
 鍵 (秘密鍵)
 鍵生成 (一方方向性変換で復元不可)
 鍵穴(公開鍵)
 悪用できない

保管
指静脈、顔、虹彩、指紋

利用
電子署名、手ぶらで証明

さまざまな生体認証

生体情報をどこにも残さず安全

PBI：公開型生体認証基盤
Public Biometric Infrastructure

サービス力

認証精度と認証速度の両立を実現
大規模利用も視野に入れ商用化

マルチユース 利用者情報の連携制御
 連携API
 外部連携

マルチモード 本人を安全確実に特定
 生体認証PBI

クラウド型サービス
 何も持たずに手ぶらで利用
 いつでも どこでも 安全に 確実に

マルチユース: 飲食店、道の駅、観光地、乗車
 連携API: 役場、銀行証券、決済代行、ビル管理

PBIを核とした認証プラットフォーム

生体認証統合基盤サービス
(PBIを核とした認証プラットフォーム)

応用力

「ひと中心」利用者視点に基づいた付加価値を利用形態に応じて提供

マルチユース
 ・決済、ウォレット
 ・地域ポイント、入退管理

連携API
 ・無人端末、POSレジ
 ・Webポータル

マルチモーダル
 ・顔認証 (技術協創)
 ・指静脈認証

高性能
 ・IDレス化(1:N認証)
 ・ウォレットセキュリティ

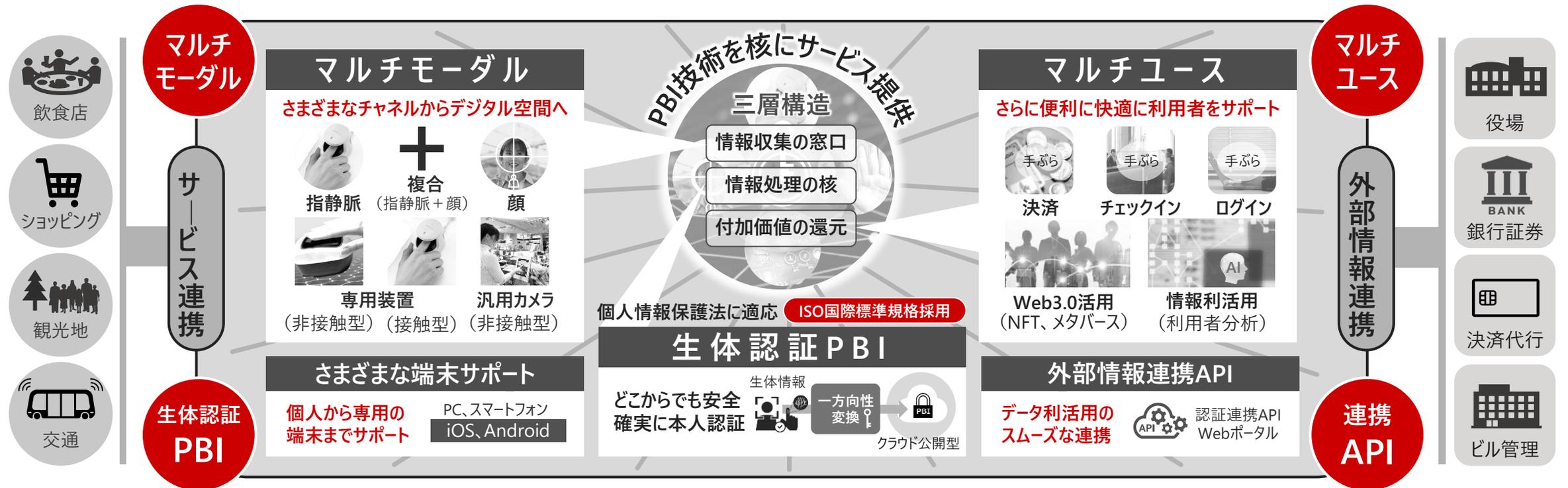
さまざまな利用シーンに柔軟対応

ひと中心の付加価値機能
(手ぶらで安心・安全・便利)

人々の生活を変える日立『生体認証統合基盤サービス』

生体認証と機微情報を保護する技術PBIを組み合わせた次世代型認証サービス

PBI技術を核にした日立『生体認証統合基盤サービス』

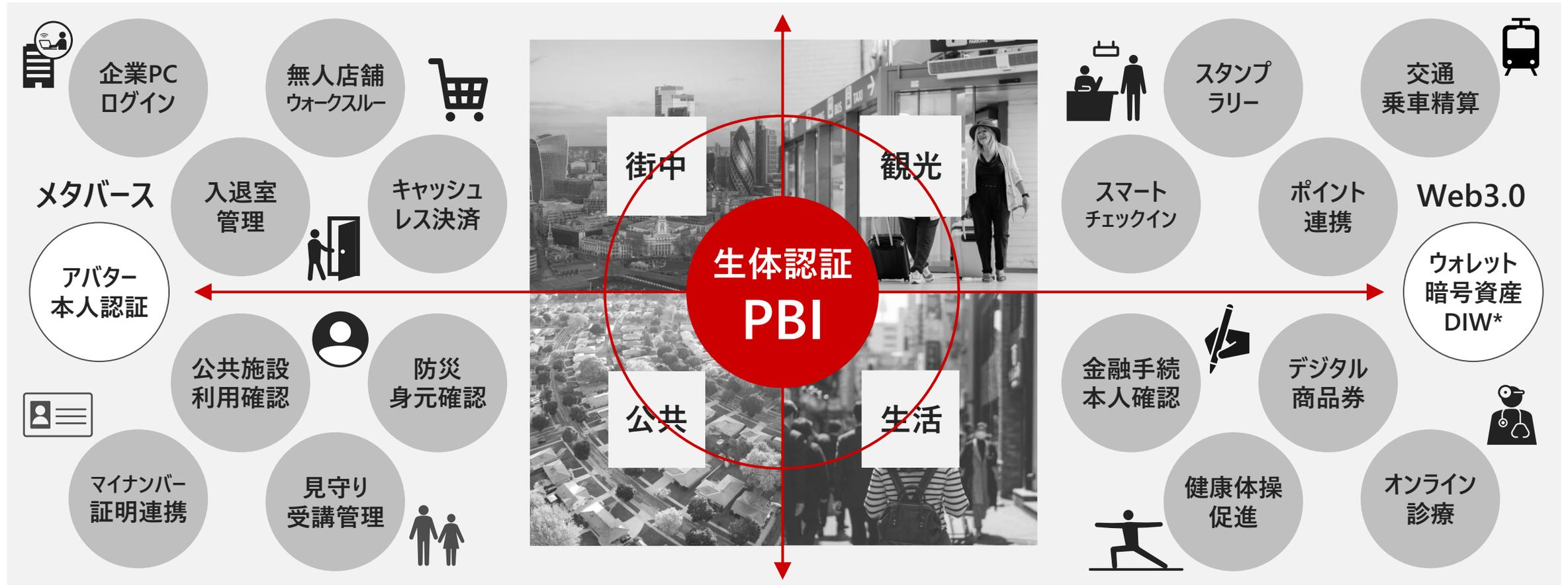


何も持たずに安心・安全・便利なデジタル社会に向けた対応

地域社会に浸透する生体認証

地域のデジタル化推進に向けこれまでに取り組んできたユースケース

生体認証は、本人確認はもとよりさまざまなサービス用途への適用が期待できるためデジタル社会へのDX対応として導入の要請が急増しています。



* DIW : デジタルアイデンティティウォレット
©Hitachi, Ltd. 2026. All rights reserved

HITACHI